

肥 後 五 鶏

(熊本県農業研究センター畜産研究所)

熊本には、古い時代に作り出され、育てられた5種類の鶏があり、肥後五鶏と呼ばれています。

これらの種鶏は、永い時代盛衰の中で既に絶えてしまったものもありますが、先人の遺した貴重な遺伝資源として、また、ふるさとの文化財として大切に守り育てていく必要があります。

鶏種名	系 統	羽 色	体 重	備 考
肥後ちゃぼ	大冠桂ちゃぼ 大冠白ちゃぼ 達磨ちゃぼ(黒) 達磨ちゃぼ(白)	コロンビア斑 白 黒白 白	雄 850 g 雌 670 g	国天然記念物 (愛玩用)
久連子鶏	小 国	銀 笹	雄 2.0 kg 雌 1.6 kg	県天然記念物 (民族芸能用)
熊 本 種	地 鶏	しょうじょう 淡 猩 々	雄 3.7 kg 雌 3.0 kg	熊本コーチンの 原種(卵肉兼用)
地 す り	軍 鶏	黒	雄 3.7 kg 雌 3.0 kg	昭和 59 年復元 (肉用)
天草大王	地 鶏	しょうじょう 濃 猩 々	雄 5.6 kg 雌 4.8 kg	平成 13 年復元 (肉用)



肥後ちゃぼ (大冠桂)



肥後ちゃぼ (達磨)

天 草 大 王

本種は、明治中期頃長崎港から島原を経て、天草に持ち込まれた中国原産のランシャン種に天草にいた大シャモやコーチンなどを交配して、肉用に適するよう大型に作出されたもので、雄の大型のものは体重7kgに達したと伝えられる世界でも最大級の鶏です。

しかし、残念ながら、昭和の初期頃絶滅してしまいました。そこで、熊本県農業研究センター畜産研究所では、平成4年から「ランシャン種」に「大シャモ」、「熊本コーチン」を交配し、特に発育と羽色に重点を置いて選抜交配を繰り返し、平成13年に復元することができました。

平成15年2月からは、復元された天草大王の雄と九州ロードの雌を交配したくまもとの地鶏「天草大王」の生産を開始しました。



久連子鶏



復元された天草大王の雄雌



熊本種



天草大王の雄と九州ロードの雌



地すり